

第6章

40年前の酔っ払い…いやいやエレキの職人たちが
今も教えてくれている

The アナログ・センス! 往年の名トランジスタ回路

加藤 大(Dai Kato)

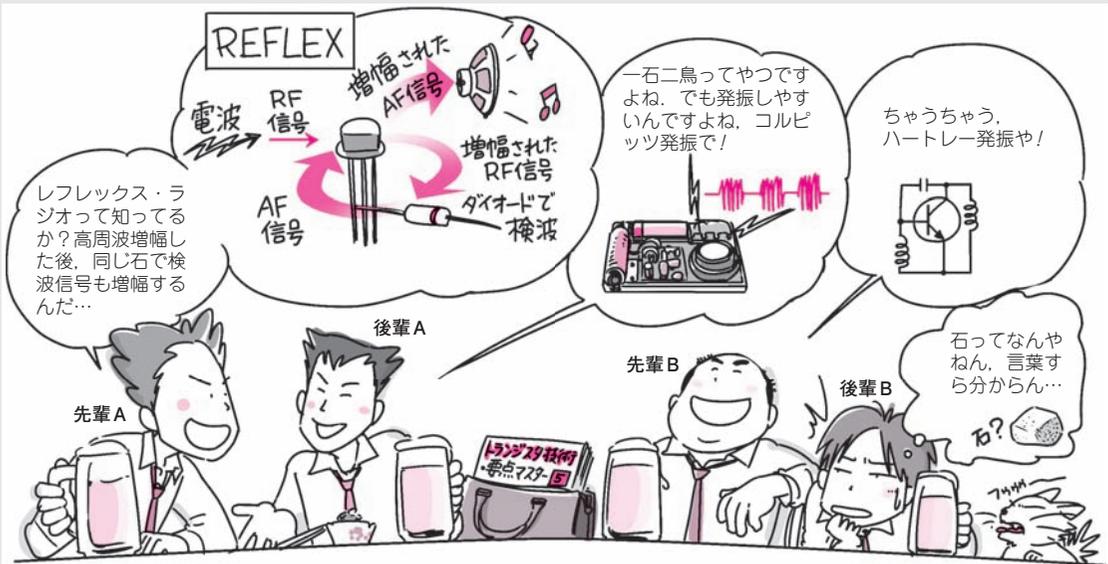


イラスト:「飲みニケーション」でエンジニアは育つ

● [要点186] エレキは楽しんで身につける

40年前、電子回路技術はまさに時代の先端でした。そのころ育った子供たちはデパートで「電子ブロック」を買ってもらい、電子回路の実験や工作をして遊んだものです。いろんなことを知っていて教えてくれる職場の先輩たちも、かつてはラジオ少年として電子回路に親しみ、エンジニアの道に進んだのでしよう。

当時のラジオ少年は、子供雑誌のラジオを組み立てるところからはじめて、電子工作回路集などを読みあさり、「あれを作りたい、これを作りたい」と夢中になっていました。そして、電子回路の理屈を知りたくて、チンプンカンプンながらこのトランジスタ技術を購読して、大人の電子工学の世界を眺めるようになります。

● [要点187] 身につけるならいい匂いのセンスを

雑誌を教科書にして、ラジオ少年たちは本当にいろんなことに触れて考えました。

- シンセサイザってカッコいい。自分で安く作れないかなあ
- この回路図ってよく見る形だなあ。無安定マルチ何とか…だな
- 読みやすくて美しい回路図ってあるよね
- この部品の値を変えるとどうなるかな?
- 在庫切れ部品の代わりにこれを使えとパーツ屋が言うんだけど…
- ラジオの部品を触ったらモノスゴイ音が出てきた!
- トランジスタは高級品だから、間違わないようはんだ付けしないと…

つまり、ラジオ少年は、エンジニアとしての教養課程、今の言葉で言えばエンジニアのリテラシーを学んでいたのです。これは簡単に習得できるものではなく、教科書にもありません。

本稿では電子工作の定番回路を取り上げて、当時のラジオ少年がどんなことを味わい身につけたのか現代の目線で振り返ってみます。